

事業所番号	3390102899
事業所名	グループホームエルム撫川くるみ庵
自己評価作成日	令和5年2月10日
運営推進会議開催日	令和5年2月24日
外部評価作成日	令和5年3月20日
提出日・公表日	令和5年3月24日

凡例
A. 充分にできている
B. ほぼできている
C. あまりできていない
D. ほとんどできていない

No.	タイトル	評価項目	自己評価	記述 (具体的な実施状況など)	現状の課題や質の向上に向けて運営推進 会議で話しあった内容	外部評価	記述(新たな課題、改善点など)
I. 理念・安心と安全に基づく運営							
1	理念の共有と実践	地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	B. ほぼできている	「利用者の尊厳を守り、その人らしい生活を提供する」を今年度の事業所目標として掲げ、各ユニットで会議・カンファレンス等を実践してきた。			認知症介護の理解と考え方を職員と共有していく。
2	事業所と地域とのつきあい	事業所は、利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、認知症の人の理解や支援の方法などを共有し、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	B. ほぼできている	コロナ禍ではあったが運営推進会議を集合形式で開催できた。	地域ニーズの把握に努め、事業所として担える役割を務めていきたい。		
3	運営推進会議を活かした取り組み	運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	B. ほぼできている	会議での意見を現場にもフィードバックして、介護の質や本人・家族の満足度に繋がるように会議を行った。	家族アンケートを実施した。その結果を今会議で共有する。		家族に対してのアンケートを行った結果を真摯に受け止め、質の向上に努めていく。
4	市町村との連携	市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	B. ほぼできている	事業者指導課の担当者が運営推進会議に出席していただき、定期的に実情等を報告する場を設けている。	事業所から市町村へ連絡をすることは、事故報告等、どちらかというマイナス要素が多くなる。		市町村の客観的な視点をサービス内容に反映させていきたい。
5	身体拘束をしないケアの実践	代表者および全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	A. 充分にできている	やむを得ない状況で身体的拘束をするケースが今年度は1件あった。法令に基づき適切に対応した。		A. 充分にできている	今後も委員会を開催して、身体的拘束の適正化を図っていく。
6	虐待の防止の徹底	管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	A. 充分にできている	今年度2回研修を実施した。身体的な虐待だけでなく、心理的な虐待についても理解を深めるように努めた。		A. 充分にできている	事例検討等を通して、日頃のケアで不適切な場面がないか確認をしていく。

No.	タイトル	評価項目	自己評価	記述 (具体的な実施状況など)	現状の課題や質の向上に向けて運営推進 会議で話しあった内容	外部評価	記述(新たな課題、改善点など)
7	権利擁護に関する制度の理解と活用	管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	A. 充分にできている	制度を活用するケースはなかったが、個別のケースに応じて制度の案内をした。			
8	契約に関する説明と納得	契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	B. ほぼできている	見学時と契約時に親切丁寧な説明を心がけ、疑問点は都度説明して理解が得られるように努めている。			当方の説明が一面的にならないように、利用者や家族等に考える時間をつくれるようなスケジュールで進めていく。
9	運営に関する利用者、家族等意見の反映	利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	B. ほぼできている	意見・要望を聞いたらその都度職員と共有を図り、改善できるように努めている。外部者へは外部評価の制度を活用して発信している。		B. ほぼできている	今後もいただいてご意見を真摯に受け止め、職員で共有していく。
10	運営に関する職員意見の反映	代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	B. ほぼできている	会議やカンファレンスを定期的で開催して、意見を共有できる機会を設けている。			
11	就業環境の整備	代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	B. ほぼできている	人事考課制度を導入して、基準に基づき条件等の整備に努めている。		B. ほぼできている	職員がやりがいのもてる就業環境を今後も考えていく。
12	職員を育てる取り組み	代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	B. ほぼできている	法人内の研修を定期的で開催して学べる機会を設けている。法人外の研修にも個々の能力に応じた研修が受けられるようにしている。		B. ほぼできている	キャリアアップできるように計画的な研修を継続していく。
13	同業者との交流を通じた向上	代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	C. あまりできていない	コロナ禍の状況もあり同業者との交流機会が少なかった。			
14	本人と共に過ごし支えあう関係	職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	B. ほぼできている	「第二の家族」という思いを持って関係構築に努めている。			

No.	タイトル	評価項目	自己評価	記述 (具体的な実施状況など)	現状の課題や質の向上に向けて運営推進 会議で話しあった内容	外部評価	記述(新たな課題、改善点など)
15	馴染みの人や場との 関係継続の支援	本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や 場所との関係が途切れないよう、支援に努め ている	B. ほぼできている	家族等、馴染みのある人との関係性が途切れ ないように、可能な限り面会が行えるよう に取り組んだ。	面会機会がなくなることで認知症が進行す ることもあるため、面会も認知症の進行を緩 やかにする支援の一つと考えている。		
II. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント							
16	思いや意向の把握	一人ひとりの思いや暮らし方、生活環境、一 日の過ごし方の希望や意向の把握に努めて いる。	B. ほぼできている	本人・家族の意向を踏まえて支援を行って いる。難しい場面もあり今後の課題として考 えている。			それぞれの思いや意向をしっかり 理解する意識を持って接していく。
17	チームでつくる介護計 画とモニタリング	本人がより良く暮らすための課題とケアのあり 方について、本人、家族、必要な関係者と話 し合い、それぞれの意見やアイデアを反映 し、現状に即した介護計画を作成している	B. ほぼできている	会議・カンファレンスを通して意見を共有し ている。	職員間では話し合いができていますが、本人・ 家族の意見が反映されにくいこともある。今 後はしっかりと意見交換を増やしていきた い。	A. 充分にできている	コロナによる規制も徐々に緩和してい ているため、ご家族を交えた計画づく りをしていく。
18	個別の記録と実践へ の反映	日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工 夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共 有しながら実践や介護計画の見直しに活か している	B. ほぼできている	日々の様子や変化を記録しているが、その 具体的な内容が記録されていないこともあ る。計画の内容に基づいて具体的な記録が できるように努めている。		B. ほぼできている	抽象的な記録ではなく、状況が理解 しやすい記録を心がけていく。
19	一人ひとりを支えるた めの事業所の多機能 化	本人や家族の状況、その時々生まれる ニーズに対応して、既存のサービスに捉われ ない、柔軟な支援やサービスの多機能化に 取り組んでいる	B. ほぼできている	その都度最適な対応ができるように努めて いる。事業所として対応できる範囲の中で 柔軟な対応に努めています。	事業所として対応が難しい場面もありま すが、他の機関に相談する等して可能な限 りニーズに対応できるように今後も対応して いきます。		
20	地域資源との協働	一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を 把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全 で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支 援している	C. あまりできていない	移動販売やボランティアを活用しているが、 地域資源の活用は今後の課題として考えて いる。	地域との交流や地域の資源を活用した取り 組みは今後の課題である。コロナに関する 対応も緩和されてくることから、今後努力を していきたい。		
21	かかりつけ医の受診支 援	受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所の 関係を築きながら、適切な医療を受けられ るよう支援している	B. ほぼできている	定期受診でかかりつけ医と情報を共有して いる。訪問診療を利用されている方は定期 診療に加えて、必要時に往診を受けてい る。			診察内容等、ご家族と共有して医療 機関との連携を図っていく。
22	入退院時の医療機関 との協働	利用者が入院した際、安心して治療できる ように、また、できるだけ早期に退院できる ように、病院関係者との情報交換や相談に努 めている。あるいは、そうした場合に備えて病 院関係者との関係づくりを行っている。	B. ほぼできている	病院の関係者、かかりつけ医と情報を共有 して、必要時には退院カンファレンスを行 い安心して退院できるように努めている。		B. ほぼできている	入院時には本人・家族と医療機関と の連携がスムーズに行えるように、 必要な情報共有を迅速に対応して いく。

No.	タイトル	評価項目	自己評価	記述 (具体的な実施状況など)	現状の課題や質の向上に向けて運営推進 会議で話しあった内容	外部評価	記述(新たな課題、改善点など)
23	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援	重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	A. 充分にできている	重度化した場合の指針に基づいて、本人・家族、かかりつけ医、事業所とが協働した支援を心がけています。		A. 充分にできている	重度化した場合でも最期まで安心して過ごしていただける環境を今後も整備していく。
24	急変や事故発生時の備え	利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	B. ほぼできている	マニュアルを作成し、個々の留意事項を確認して有事に備えているが、想定外のことも発生するため都度対応の見直しもを行っている。			マニュアルのみでなく、有事の際に迅速に対応できるようにする。
25	災害対策	火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	C. あまりできていない	災害時のマニュアルを作成して、定期的に訓練を行っている。	今後は地域との協力体制を確認していくことも必要であるため、地域の方も加えて訓練を検討していきたい。	C. あまりできていない	有事の際に地域との連携や避難場所の確認、応援体制の確認、見直しを定期的に行う。
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援							
26	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保	一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	B. ほぼできている	指針とマニュアルを作成している。認知症であっても、人格と尊厳が守られた生活が保障できるように努めている。		B. ほぼできている	個人の尊厳を守れるように今後も取り組んでいく。
27	日々のその人らしい暮らし	職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりの日常生活における希望や意向、暮らしのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	B. ほぼできている	決まりごとは最小限にして、一人ひとりのペースを大切に取り組んでいる。			その人らしさを職員で共有して、その支えができるように取り組んでいく。
28	食事を楽しむことのできる支援	食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	B. ほぼできている	行事として一緒に食事を作る機会を設けている。日々の中で片付けと一緒に、役割をもてるように努めている。		B. ほぼできている	楽しい雰囲気や落ち着いて食事が摂れる環境を提供していく。
29	栄養摂取や水分確保の支援	食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	B. ほぼできている	食事摂取量や水分摂取量を記録して、個々に必要な支援を行っている。			
30	口腔内の清潔保持	口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	B. ほぼできている	毎食後に口腔ケアを行い、口腔内の清潔保持に努めている。適宜訪問歯科を利用して、専門的な視点で評価をしている。		B. ほぼできている	口腔内のトラブルは肺炎等に繋がることもあるため、日頃から観察を行い迅速に対応する。

No.	タイトル	評価項目	自己評価	記述 (具体的な実施状況など)	現状の課題や質の向上に向けて運営推進 会議で話しあった内容	外部評価	記述(新たな課題、改善点など)
31	排泄の自立支援	排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援、便秘の予防等、個々に応じた予防に取り組んでいる	B. ほぼできている	排泄に関する内容を記録して、個々のパターンや下剤の調整を行い対応している。本人の能力に応じて自立に向けた視点での支援に努めている。		B. ほぼできている	介護者の視点ではなく、本人の視点になり必要なケアを考えていく。
32	入浴を楽しむことができる支援	一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	C. あまりできていない	入浴する曜日、時間帯は事業所で設定している。その中でリラックスして入浴できるように努めている。			
33	安眠や休息の支援	一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	B. ほぼできている	個々の体力や生活パターンの把握に努め、活動とのメリハリをつけた生活ができるように努めている。			
34	服薬支援	一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	B. ほぼできている	必要時には提携の薬局に相談して助言をもらっている。精神系の薬は減量もしくは内服しなくても良い方向に向けて考えています。		B. ほぼできている	提携の薬局と連携を図り、本人の状態を観察して対応していく。
35	役割、楽しみごとの支援	張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	C. あまりできていない	本人の能力に合わせて達成感が得られるような役割をもてるように支援している。	一人ひとりに関りが持てる時間を増やしていき。気分転換や楽しみを持って生活できるようにしていくことが課題だと感じている。		
36	日常的な外出支援	一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	C. あまりできていない	コロナの影響もあり、日常的な外出が積極的に行えなかった。	今後はコロナに関する規制も徐々に緩和してくることが予測されているため、積極的に外出できる環境を整えていきたい。		
37	お金の所持や使うことの支援	職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	C. あまりできていない	事業所で預り金を管理していないため、お金を使う機会がない。			
38	電話や手紙の支援	家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	C. あまりできていない	本人自らが電話や手紙のやり取りをすることが難しい点もあり、あまり取り組めていない。			

No.	タイトル	評価項目	自己評価	記述 (具体的な実施状況など)	現状の課題や質の向上に向けて運営推進 会議で話しあった内容	外部評価	記述(新たな課題、改善点など)
39	居心地のよい共用空間づくり	建物内部は一人ひとりの身体機能やわかる力を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。共用の空間が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、一人ひとりが居心地よく過ごせるような工夫をしている	B. ほぼできている	季節を感じられるように、季節に応じた壁紙や制作物を作成している。居室とトイレのドアの色が同じで迷う場面があるので、個々に応じて工夫して対応しています。		B. ほぼできている	
IV. 本人暮らしの状況把握・確認項目(利用者一人ひとりの確認項目)							
40	本人主体の暮らし	本人は、自分の思い、願い、日々の暮らし方の意向に沿った暮らしができている	B. ほぼできている	本人の思いを汲み取って、その思いに沿って支援できるように努めています。			
41		本人は、自分の生活歴や友人関係、暮らしの習慣、特徴など様々な情報をもとに、ケア・支援を受けることができている	C. あまりできていない	認知症の影響もあり難しい点はあるが、その都度必要な情報を伝え、自己決定できるように努めている。			
42		本人は、自分の健康面・医療面・安全面・環境面について、日々の状況をもとに、ケア・支援を受けることができている	B. ほぼできている	本人が自分のことを把握することは難しいが、職員が日々の状況を把握に務めて、必要な支援を受けられるように対応している。		B. ほぼできている	小さな変化に気づくことができ、早期対応できるように日頃からの観察を行う。
43	生活の継続性	本人は、自分のペースで、これまでの暮らしの習慣にあった生活ができている	B. ほぼできている	事業所として必要最低限の決まりごとは設けるが、その他の本人のペースに職員が合わせるように努めている。			
44		本人は、自分のなじみのものや、大切にしているものを、身近(自室等)に持つことができている	B. ほぼできている	自宅で使っていたものをそのまま持参していただき、落ち着いて過ごせるように取り組んでいる。		B. ほぼできている	大切にしている物や考えを尊重して、本人らしく生活できる環境提供を心がけていく。
45		本人は、自分の意向、希望によって、戸外に出かけることや、催(祭)事に参加することができる	C. あまりできていない	本人から出かけることの意向や希望を伝えることは難しいが、思いを汲み取り対応している。事業所内での行事には参加できる機会がある。	本人からの発信は難しいかもしれないが、本人の視点に立って、どのような対応が必要なのか今後も継続的に考えていきます。		

No.	タイトル	評価項目	自己評価	記述 (具体的な実施状況など)	現状の課題や質の向上に向けて運営推進 会議で話しあった内容	外部評価	記述(新たな課題、改善点など)
46	本人が持つ力の活用	本人は、自分ができること・できないこと、わかること・わからないことを踏まえた、役割や、楽しみごとを行うことができている	B. ほぼできている	職員がしっかりと本人の様子を観察して、能力の把握に努めて役割を持てるように支援している。			
47		本人は、自分がいきいきと過ごす会話のひと時や、活動場面を日々の暮らしの中で得ることができている	B. ほぼできている	「認知症であってもその人らしい生活ができるように」を念頭にメリハリのある生活が送れるように努めています。		B. ほぼできている	本人もそうだが、職員のいきいきと働くことも必要。
48		本人は、自分なりに近隣や地域の人々と関わったり、交流することができている	C. あまりできていない	地域との交流が多く持っていないため今後の課題と考えている。	馴染のある方や場所など、近隣・地域に捉われずに交流できる機会を増やしていきたいと考えています。		
49	総合	本人は、このGHIにいることで、職員や地域の人々と親しみ、安心の日々、よりよい日々をおくることができている	B. ほぼできている	本人がその人らしく生活できるように今後も努めていきたい。	最期に関わってくれた人が当施設の職員で良かったと思っただけのように、今後も支援をしていきたいと考えています。	B. ほぼできている	第2の家族と思っただけのように、日頃からの関りを大切にしている。

＜外部評価コメント＞

No.	タイトル	評価項目	自己評価	外部評価	記述(新たな課題、改善点など)
I. 理念・安心と安全に基づく運営					
5	身体拘束をしないケアの実践	代表者および全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	A. 十分にできている	A. 十分にできている	<ul style="list-style-type: none"> ・身体拘束を行ったケースはあったが利用者の安全配慮した上で法令に基づき適切に対応されていた。 ・法令に基づき適切であった。 ・引き続き「身体拘束ゼロ」に取り組んでいただきたい。
6	虐待の防止の徹底	管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	A. 十分にできている	A. 十分にできている	<ul style="list-style-type: none"> ・虐待の防止行ったケースはあったが利用者の安全配慮した上で法令に基づき適切に対応されていた。 ・研修も2回実施され理解を深められている。 ・絶対にあってはならないこと、定期的に研修を行ってください。
9	運営に関する利用者、家族等意見の反映	利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	B. ほぼできている	B. ほぼできている	<ul style="list-style-type: none"> ・ご家族に向けてアンケートを実施されており、そこで出た意見・要望に関して、改善できる様対策を考えられていた。 ・意見、要望を取り入れられておる。 ・ご意見箱の設置を検討してみてはどうか。
11	就業環境の整備	代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	B. ほぼできている	B. ほぼできている	<ul style="list-style-type: none"> ・働きやすい環境づくりに努められていると思う。 ・人事考課制度を導入されている。 ・若い世代が魅力をもてるような職場づくりを進めてほしい。
12	職員を育てる取り組み	代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	B. ほぼできている	B. ほぼできている	<ul style="list-style-type: none"> ・研修においれ知識の向上に努められているのが良かった。 ・職員間での情報共有はどのようにされているか気になった。 ・定期的に研修を開催され、育成に努められている。
II. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
17	チームでつくる介護計画とモニタリング	本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	B. ほぼできている	A. 十分にできている	<ul style="list-style-type: none"> ・今後の課題としてコミュニケーションを重視。 ・本人、家族の意見を反映したプランを作成してください。
18	個別の記録と実践への反映	日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	B. ほぼできている	B. ほぼできている	<ul style="list-style-type: none"> ・個々の記録やメモなど活用され努力されている。 ・誰がみても状況がわかるように記録の作成をお願いします。

No.	タイトル	評価項目	自己評価	外部評価	記述(新たな課題、改善点など)
22	入退院時の医療機関との協働	利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	B. ほぼできている	B. ほぼできている	<ul style="list-style-type: none"> 安心して退院できるよう努められているのが分かった。 利用者が安心して治療され、早期退院される、かかりつけ医と情報交換されている。 情報連携シートを活用し、入院後3非以内に連携を取りましょう。
23	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援	重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	A. 充分にできている	A. 充分にできている	<ul style="list-style-type: none"> 終末期の対策がしっかりできている。 充分できている。
25	災害対策	火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	C. あまりできていない	C. あまりできていない	<ul style="list-style-type: none"> コロナによる規制も緩和しつつある為、有事の際の対策を地域ぐるみで行うことも必要だと思う。 地域と共有して訓練が必要である。 災害が重なった時、他の場所へ移動させざるを得ない状況になった場合の想定をお願いしたい。 川が近いので避難訓練を実施してください。
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
26	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保	一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	B. ほぼできている	B. ほぼできている	<ul style="list-style-type: none"> ご本人の人格と尊厳が守られている。
28	食事を楽しむことのできる支援	食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	B. ほぼできている	B. ほぼできている	<ul style="list-style-type: none"> 季節に応じた行事と、行事に合わせた食事提供されているのがよく分かった。 食事作り、食べる楽しさを共有されている。 出来ることを最大限活かすことも認知症予防には有用だと思うので続けてください。
30	口腔内の清潔保持	口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	B. ほぼできている	B. ほぼできている	<ul style="list-style-type: none"> 訪問歯科を利用し口腔状態の把握ができています。 オーラルフレイル予防、口腔ケアが必要で、よく努められている。 口腔内の清潔に努め、誤嚥性肺炎の予防に努めましょう。
31	排泄の自立支援	排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援、便秘の予防等、個々に応じた予防に取り組んでいる	B. ほぼできている	B. ほぼできている	<ul style="list-style-type: none"> 個々にあわせた介入支援が出来る。 本人の能力に応じて自立に向けた視点での支援を継続してください。
34	服薬支援	一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	B. ほぼできている	B. ほぼできている	<ul style="list-style-type: none"> 内服しなくてもよい方向に向けてよく考えられています。 精神系の薬は減薬もしくは内服しなくても良い方向に向けての考えを継続してください。

No.	タイトル	評価項目	自己評価	外部評価	記述(新たな課題、改善点など)
39	居心地のよい共用空間づくり	建物内部は一人ひとりの身体機能やわかる力を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。共用の空間が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、一人ひとりが居心地よく過ごせるような工夫をしている	B. ほぼできている	B. ほぼできている	<ul style="list-style-type: none"> 入居者の方、個々に応じて対応、配慮されているのが分かった。 利用者の安全・安心・自立できるよう、よく配慮されている。 季節に応じた取り組みを工夫されている。 コロナで外出の機会が少なくなっているため、館内で季節を感じられるように工夫してください。
IV. 本人暮らしの状況把握・確認項目(利用者一人ひとりの確認項目)					
42	本人主体の暮らし	本人は、自分の健康面・医療面・安全面・環境面について、日々の状況をもとに、ケア・支援を受けることができている	B. ほぼできている	B. ほぼできている	<ul style="list-style-type: none"> 細かい変化に気づき皆で共有し、本人が望む生活が実現できるように考えていきましょう。
44	生活の継続性	本人は、自分のなじみのものや、大切にしているものを、身近(自室等)に持つことができている	B. ほぼできている	B. ほぼできている	<ul style="list-style-type: none"> 入居時に居室へ大切なものを持参、置くことができることで、その人らしい生活環境を提供できている。 ご本人が安心される物があると心強いと思う。 本人が落ち落ち着く環境を作っていきましょう。
47	本人が持つ力の活用	本人は、自分がいきいきと過ごす会話のひと時や、活動場面を日々の暮らしの中で得ることができている	B. ほぼできている	B. ほぼできている	<ul style="list-style-type: none"> 職員の皆様に感謝申し上げます。 認知症であってもその人らしい生活が送れるように継続して取り組みましょう。
49	総合	本人は、このGHIにいて、職員や地域の人々と親しみ、安心の日々、よりよい日々をおくることができている	B. ほぼできている	B. ほぼできている	<ul style="list-style-type: none"> コロナ禍だった為、地域との関りは難しかったが、安心して楽しみのある生活が送れている様子がよく分かりました。 職員の皆様のご支援をお願いします。